

琵琶湖定点定期観測結果速報(令和7年7月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和7年7月18日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 …… 5地点の平均値

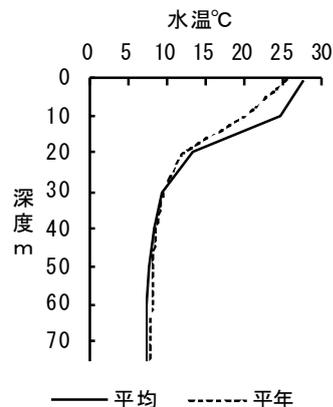
平年値 …… 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2015年～2024年(平成27年～令和6年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 7月平均値 5.7m 平年値 5.1m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	7月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	27.5	25.5	+2.0
10	24.6	20.3	+4.3
20	13.4	12.1	+1.3
30	9.2	9.6	-0.4
40	8.4	8.6	-0.2
50	7.8	8.2	-0.4
60	7.6	8.0	-0.4
75	7.5	7.8	-0.3



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
6月下旬	25.3	22.3	+3.0
7月上旬	28.4	23.9	+4.5
7月中旬	28.6	25.2	+3.4

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	7月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	4.8	14.7	-9.9
10~20	3.5	5.4	-1.9
20~40	1.5	1.9	-0.4
40~75	0.5	0.6	-0.1

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

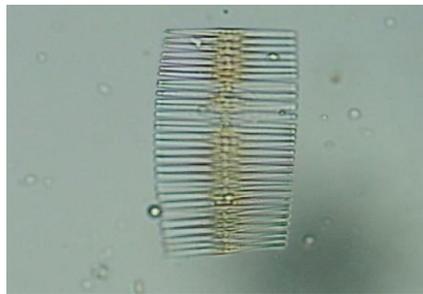
○プランクトンネットNXX14による採集(5%中性ホルマリン固定。植物プランクトンは地点Iと地点IV、動物プランクトンは全地点)

植物プランクトンについては、地点Iでは*Aulacoseira granulata* (スジタルケイソウ:珪藻)が、地点IVでは*Fragilaria crotonensis* (オビケイソウ:珪藻)が細胞数で最も多く認められた。

動物プランクトンについては、地点Iではカイアシ類のコペポデイト期幼生が、それ以外の地点ではカイアシ類のノープリウス期幼生が個体数で最も多く認められた。



Aulacoseira granulata



Fragilaria crotonensis



コペポデイト期幼生



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度: mg/L) 多項目水質計による測定値。

深度 (m)	7月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	8.0	101.5	8.9	109.6	-0.9	(-8.1)
10	9.4	112.0	9.5	106.6	-0.1	(+5.4)
20	8.8	83.5	8.7	81.8	0.1	(+1.7)
30	10.1	87.9	9.5	84.4	0.6	(+3.5)
75	6.6	55.1	6.7	56.3	-0.1	(-1.2)